

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	木曽地域の新しい「もの・こと」開発とマナビの情報発信
事業主体 (連絡先)	木曽マナビネットワーク 長野県木曽郡木曽町福島5122
事業区分	教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,464,100円 (うち支援金: 1,165,000円)

事業内容

木曽地域にて、地域資源を見直すとともに、地域の新しいもの・ことをつくる実践プログラムを実施

- ・木曽地域の新しい「もの・こと」を学ぶ全5回の実践プログラムを実施(地域内から3組が参加)
- ・8月1日には、説明会を兼ねた公開講座(テーマ「アイデアをかたちにする」)を実施。また講座の最終回は、発表・講評会として公開でのイベントを実施した。
- ・2月に視察を実施し、他地域の山間部での商品開発やその情報発信の方法等について学んだ。
- ・発表会の後に、木曽町図書館にて展示会を実施。参加者それぞれが開発した「地域の新しいもの・こと」と、里らぼの取り組みについて展示を行なった。

事業効果

- ①全5回の実践プログラム「里らぼ」を通して、3組の参加者それぞれが木曽地域の資源を活用したアイデアを創出した。最終発表会では、計50名(午前26人/午後24人)の人が参加し、木曽地域から生まれた3つのアイデアの内容・背景を共有。当日はオンラインでの配信も行った。
- ②4ヶ月に及ぶ講座の最初には、公開講座として木曽町文化交流センターにてイベントを実施。地域内外より25人が参加(うち高校生2名)。

今後の取り組み

里らぼ1・2期と連携しながら、実践的プログラムで創出されたアイデアの実現に向けて打ち合わせ等をすすめる。またアイデアそのものと、その背景にある木曽地域の資源についても知ってもらう機会をつくるような展示会(販売会)や情報発信を継続して行う。時期を見て里らぼ第3期を実施する。



実践プログラム「里らぼ」の発表・講評会の様子

【目標・狙い】

- ①実践的で継続的な学びの場の創出
- ②地域資源や自分たちの技術・知恵を見直しながら、木曽地域の新しい「もの・こと」を創出する
- ③オンライン実施などを活用し、地域外の人と木曽地域の活動者が出会う機会をつくる

■自己評価【A】

【理由】

- ・全5回の実践プログラムを4ヶ月間かけて実施。3組の参加者から、地域資源を活用した新しいアイデアが創出されるとともに、公開講座や発表・講評会、展示会に予想以上の反響をいただいた。地域内外の人たちに、地域資源を見直した商品開発の取り組みについて知ってもらう機会を作ることができた。
- ・視察を通して、他地域のコミュニティとのつながりを作ることができ、来年度以降につなげていく機会を持つことができた。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある